

「エネルギーグループ知的財産報告書（2015年2月）」の概要

○ 特集（5～12頁）

当社は、「電気を通じてお客さまの暮らしを支えたい」との思いで、グループをあげて様々な創意工夫に取り組んでいます。

その成果を3つの「現場のチカラ」としてまとめ、携わった発明者の声を添えて、現場の創意工夫の事例の一端を紹介しています。

| テーマ | 紹介している成果や事例（抜粋） |
|-----------------------------------|---|
| つなぐチカラ （送配電線の保守等に関する技術） | 【送電線の損傷箇所発見の効率化】 自走式架空線探傷装置の走破性を向上 【配電システムの保守技術の強化】 配電システムの自動開閉器操作技能を強化 |
| 灯すチカラ （停電時の対応に関する技術） | 【配電線事故時の情報収集の効率化】 停電時の情報管理の高度化 【配電線事故時の復旧対応の効率化】 災害時の巡視・復旧時間見積り精度を向上 |
| 応えるチカラ （お客さまニーズ・信頼にお応えするための技術） | 【仮設電源設備の安全性の向上】 建設現場での安全な電気の使用を支援 【社内システムのセキュリティの強化】 業務システムの情報セキュリティを高度化 |

○ 電気事業を支える基盤技術（13～16頁）

良質で低廉な電気の安定供給に欠くことのできない基盤技術（発送配電に関する技術やこれを支える技術）の具体例について紹介しています。

また、基盤技術と特許等の知的財産の関わり（当社グループの特許出願の目的）、特許の価値の定量的評価の考え方等を紹介しています。

当社保有特許の価値の定量的評価については、「参考1」を参照ください。

○ 研究・開発への取り組みと独自技術（17～22頁）

「安全確保」を前提としたうえで「供給安定性」「経済性」「環境保全」を達成するための研究・開発戦略（重点開発分野とその具体例等）について紹介しています。

○ 知財戦略推進の基本理念（23～30頁）

知財戦略の基本的な考え方や基本理念，企業価値向上を実現するための施策，研究・開発戦略，事業戦略と知財戦略を一体的に推進するための取り組み等について紹介しています。

また、知財活動の具体的な取り組みについて紹介しています。研究開発部門のみならず、営業所・発電所・電力所等の現業機関の社員も積極的に発明を創出しており、裾野の広い活動が展開されていることが特徴です。

知財活動の実績は「参考2」を参照ください。

○ **知財リスクへの対応 (31～32 頁)**

知財戦略推進の基本理念の一つである「他者の権利の尊重」や、コンプライアンス最優先という考え方に基づく、権利侵害リスクの回避や権利確保の取り組みを紹介しています。

○ **商標への取り組み (33～34 頁)**

特許とならび重要な知的財産である商標について、お客さまとの接点である「シンボルマーク」や当社グループの「グループシンボルマーク」等に対する考え方・取り組み等を紹介しています。

○ **CSRの取り組み (35～36 頁)**

知財面でのCSRの取り組みとして、当社の技術を活用した国際貢献、特許を活用した東日本大震災の復興支援、地域の人材育成等の地域貢献活動を紹介しています。

○ **EnerGia IP[※] Activity 2014 (37～38 頁)**

特許の価値の定量的評価、特許出願・登録件数・登録率の推移、発明者人口の推移、海外への出願件数など、知財活動を通じて創出された知的財産の実績を纏めて紹介しています。

※：IP…Intellectual Property (知的財産)